

高アミラーゼ血症を診断の契機とし Sjogren 症候群を併発した多発性骨髄腫症例

兼子裕人¹，大川原康夫¹，野村憲一²，堀池重夫²，谷脇雅史²

¹愛生会山科病院血液内科，²京都府立医科大学血液内科

[緒言] 自己免疫疾患に B 細胞腫瘍が高頻度に併発することが知られているが Sjogren 症候群 (SS) と多発性骨髄腫 (MM) の合併は非常に稀とされる。著明な高アミラーゼ血症を SS および MM 診断の契機とし MM の病勢に一致してアミラーゼ値が変動した症例を報告する。

[症例] 72 歳，女性。腰痛と口腔内乾燥を主訴として近医受診し精査目的に紹介。血清・尿アミラーゼは各々 16440，56620IU/l。98.4% が S 型。抗 SS-A 抗体 92.9U/ml であり症状等と合わせ SS と診断したが同時に IgG が 7011mg/dl と上昇しており血清免疫電気泳動で IgG- 型の単クローン性の増加を検出した。骨髄検査では有核細胞数の 37% を異型をもつ形質細胞が占めていた。核型は 46,XX。第 2，3 腰椎圧迫骨折，頭蓋骨の多発打ち抜き像から MM と診断し，Hb9g/dl と貧血もみられることから VAD 療法を開始。症状の改善と IgG，アミラーゼの低下を得た。CPM で幹細胞を採取し，L-PAM 大量投与を前処置として PBSCT を施行。PR となったが移植後 15 か月で再燃し，その際，末梢血への形質細胞出現とともに IgG，アミラーゼの著増を認めた。

[考察] MM では高アミラーゼ血症が稀にみられアミラーゼ遺伝子近傍での再構成などが原因として考えられることもあるが，一部には SS の合併例も含まれることが示唆される。